

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 KFC 西鶉

テーマ 「ICT 端末を使った授業改善」～教科横断的に実践交流しよう～

取組のポイント・成果

【令和5年11月6日（月）】 岐阜大学教育学部教授 益子典文 先生からのご指導

KFC 西鶉に所属する教員が、どのような ICT を用いた授業を実践したいのか、あるいは実践したのかを、互いにプレゼンし合った。プレゼンに対する教員間の意見交流を通してブラッシュアップを図るとともに、益子先生から今後の授業を改善していくための貴重なご指導を頂いた。また、本校の実態を踏まえた授業の在り方について話し合った。

【令和5年12月21日（木） 講演会（～ICT をヒントに「授業」について考えよう！～）

岐阜大学教育学部教授 益子典文 先生

華陽フロンティア高校(以下、本校)の教員と他校の教員を合わせて、約 30 名の参加者があった。まず本グループの教員より、本校が抱える問題についての説明と、それを踏まえた上での授業実践の報告を行った。実践の内容は、「MetaMoji」を用いた対話を取り入れた地歴公民科の授業と、「ゲーミフィケーション」を活用した理科の授業の 2 つであった。両実践ともに、本校の生徒の実態と向き合い、生徒を能動的に参加させるにはどのような工夫をするべきかという課題に取り組むものであった。

次に、益子先生の講演会が実施された。テーマは「授業における相互作用と教材開発 — 華陽フロンティア高等学校における授業の特質とその改善の方法 — 」というものであった。主に高校教師が教材と向き合うに際して必要な姿勢や、授業における教員—生徒間のやり取りの重要性を学ぶことができた。

講演会の後は、内容を踏まえたグループ交流が行われた。講演の中で、高等学校の授業はその学校のレベルによって教材の捉え方が変わるとの指摘があったことを踏まえ、本校と他校の教員の間で、教材の捉え方の違いに関して意見を交わす姿が見られた。またグループによって話題は様々に広がりを見せ、ICT 機器の活用方法に関する議論や、教員—生徒間のやり取りをどのように評価に活かすべきかを議論するグループがあった。



今後の課題

益子先生にご指導を頂くことで、本研究に参加した教員の ICT 機器活用の目的が明確になったことが最大の成果である。これまでは ICT 機器本体にばかり目が向いていたことで、使いにくいアイテムになってしまっていた。これを相互作用のための装置と捉え直し、相互作用させたい対象を念頭に置くことで、活用の幅が広がったと考えられる。今後は校内の研修を通して、上記のような活用方法を広めていくことが課題となる。